

このとき大きなピストン運動がおこり、ライナーの破損や、歩行の妨げとなる。場合によっては、断端の損傷に繋がる。エロンゲーションにより、シリコン量が多い遠位部を採型時に引き伸ばし、シリコンの遊びを取り除き、完成後のピストンを最小限にする事ができる。

エロンゲーションを保ったまま、ブラダーをロールオンする。ロールオンが完了すると、引き伸ばしが保持されるので、先端は離して構わない。

速やかに加圧する。日本人の場合、ギプス採型で80mm HGを基準とする。90～95程度まで加圧できると、ほぼ表面を均すだけで、修正が完了できる。断端ボリューム変化が見越されるケースでは、70～75程度として、ソックスの使用を前提としたソケットを製作する事も可能である。大腿部が細い方(ベルトなどで萎縮が見られる方)に加圧を加えると、大腿部の締め付けにより痛みを訴える場合がある。予めスポンジなどを大腿部に巻き、問題を回避し、十分に加圧出来るようにする。

5分程度ギプスが硬化するのを待ち、硬化後、20mmHgまで減圧し、治具を取外す。

.ICEROSS適合チェック

以下の手順をとり、ICEROSSを用いたソケットの適合チェックを行います。

義足の高さを確認した後、ソケットのトリミングラインを確認します。十分に伸展することができるか。立位で、ソケット後壁がハムストリングスを強く押し込み、痛みが発生していないか。座位で、ソケットの側壁がズボンを押上げていないか。十分な屈曲位をとることができるか。

* 全面荷重を得る上で、ソケット後壁の高さは重要です。上記のような手順で慎重に切り下げます。低くし過ぎると、軟部組織が外に逃れようとするので、ボリュームの一致が得られなくなります。

立位をとり、痛みや不快な箇所がソケット内で発生していないかを確認します。

1) 部分的に痛みなどを感じる場合。アライメント変更により解消されるかどうか。トリミングについても再度確認。

モデル修正

断端の採寸値に対して、3%程度のコンプレッションをかけます。上述の通り、加圧が充分にできていれば、モデル表面の凸凹を均す程度で、削り修正が完了します。

盛り修正は一切しません。盛り修正が必要な部位には、分圧パッドを貼付け盛り修正の替わりとします。

ソケットのトリミングラインのスタート地点

前方はパテラの中央程度、側方は動揺など考慮して高めに、後壁はMPTレベル、以上を出発点とします。ハムストリングスを押し込まないよう、僅かに彎曲させ切り下げます。

ICEROSSのトリミング

ICEROSSはトリミングして使用します。高さの目安はソケットから5cm程度近位ですが、大腿部に萎縮が見られ、空気がライナーに浸入する恐れがある場合は高めでトリミングします。トリミングをせずにICEROSSを使用すると、膝の動きを妨げパテラ表面への負担がかかりトラブル原因となります。トリミング時の処理は大変重要です。

(トラブルシューティング)

2) 断端末に痛みや突き上げを感じる場合。ソックスをライナーの上に装着し、問題が解消されるかどうか確認。

* ラatchetピン式のロックの場合、「カッチ...カッチ...」と徐々に入って行く位の適合が必要です。「カチ、カチ、カチ」と連続してクリック音がするような状態ではソケットが緩いと言えます。

断端ボリュームが適切に収納されているのかを確認します。オズール製ソックスをライナーの上に向け、本人の主観的な評価がどのように変化するのかを確認。シースを2枚重ねた程度の厚みのソックスを、1枚、2枚と装着枚数を増やし、その都度、装着者の評価を確認。

ピストン運動が発生していないのかどうかを確認。歩行に移り、ピストン運動が発生していないのかどうかを、歩容の観察、及び本人の主観とあわせ確認します。